



緑の園 佐藤さん106歳。お誕生日おめでとうございます。

緑の園



4月号

ヒルトップハイツ

グリーンプラザ



デイサービスセンター

だより



第106号

令和7年4月1日発行

Jeff Beck/ Blow By Blow(1975)

春眠暁を覚えず…。ついつい 転寝が心地よい季節です。

いよいよ4月。新年度です。
いろいろなものが変わるこの
時期、3月末日をもって特別養
護老人ホーム丸瀬布ヒルトップ
ハイツの加藤施設長が退職いた
しましたので報告します。



退任のご挨拶

さす日差しにも少しずつ温かみを感じてきた今日、私ことでは
ありますが、3月31日付けをもちまして、定年により退職させ
ていただくこととなりました。

5年間の勤務ではありましたが、在任中は能正理事長様はじめ
役職員の皆様には法人の運営管理に一方ならぬご指導、ご鞭撻を
いただき心から感謝申し上げます。

振り返りますと、令和2年の時は、新型コロナウイルス感染症
が1月に発生し全国で拡大し、4月には緊急事態宣言が出され、
自粛生活や休業要請などが長引く生活に不安がある時期でした。

今振り返りますと、いまだに終息はしていませんが、こんなに
も長期間にわたるとは思ってもいませんでした。

その中であって、施設の移転計画が既にすすんでおり、設計に
始まり、移転工事、備品整備、竣工式、引っ越し、そして旧施設
の解体工事までと、あっという間の5年間でした。



新しい施設整備に関わら
せていただきましたこと、
又、施設運営におきまして
は、行政経験のみで民間事
業経営経験のない私が施設
長の大役に不安がありまし
たが、幹部職員の適切なア
ドバイスにより今までその職を全うすることができまし
た。重ねてお礼を申し上げます。



利用者様家族の温かいご支援、たくさんのボランティア
の方々や地域の皆様方
の献身的なご支援、遠
軽厚生病院まるせつぱ
クリニックのご協力に
より、施設運営が支え
られていることを自覚
し、関係者の皆様に対
しましても改めて厚くお礼申し上げます。

ただ、思うに新型コロナウイルス感染症がまん延する中
利用者様と御家族様との面会がほとんどできなかったこと
施設でのイベントなどが中止に追い込まれたことなど、利
利用者様、利用者様家族にとって大変ご迷惑をおかけした
ことに対し、心よりお詫び申し上げます。

こうした中で退職することは大変心苦しく存じますが、
お許しいただき、丸瀬布社会福祉協会の更なる発展、入居
者様ご家族様、そして役職員の皆様のご健康を心からご祈
念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。



令和7年3月31日

特別養護老人ホーム丸瀬布ヒルトップハイツ

施設長 加藤 俊之

※加藤施設長様より特別養護老人ホーム丸瀬布ヒルトップハイツへ「ミールチェア」4脚を寄贈いただきましたことを報告いたします。心より感謝いたしますとともにお礼申し上げます。ありがとうございました。(特別養護老人ホーム丸瀬布ヒルトップハイツ)

面会に関してのお願いです。

日頃より当法人の運営につきましてご利用者様、ご家族様に多大なるご協力を賜り役職員一同心より感謝いたしますとともにお礼申し上げます。

さて、面会につきましてヒルトップハイツ、グリーンプラザそして緑の園とも4月26日(土)から5月11日(日)までの間、制限させていただくこととなりました。度々このような措置に至っておりますことを心からお詫び申し上げます。何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。



今年度もどうぞよろしく
お願いいたします。



まずは報告とお詫びから。

先月下旬、特別養護老人ホームグリーンプラザおよび特別養護老人ホーム丸瀬布ヒルトップハイツにおきましてご利用者様が新型コロナウイルスに感染されていることが確認されました。

両施設とも直ちに感染対応を施した結果、特別養護老人ホームグリーンプラザにつきましては27日(木)に普段どおりに戻りましたが、特別養護老人ホームヒルトップハイツに関しましては現在も感染対応を継続中です。



ご利用者様とご家族様にはご迷惑・ご心配をおかけいたしまして誠に申し訳ございません。心からお詫び申し上げます。

新型コロナウイルスに関しては今年に入ってから落ち着きを見せてはおりますが、病識については世間的に乏しくなっていることを痛感しており、私達こそ日頃気をつけてはおりますが、令和5年以降5類になったことにより以前に



比べて感染しやすくなってしまったように思います。

同じくインフルエンザにつきましても一時期よりは微増となっていることからまだまだ気が抜けない状況が続いております。

まずは、特別養護老人ホーム丸瀬布ヒルトップハイツの感染対応の終息を目途に職員一同努力をしておりますので何卒ご配慮の程よろしくお願い申し上げます。

先月、今年「介護保険制度」が始まってから25年になることにちなんでお話をさせていただきましたが、模擬介護認定審査会が開催された平成10年(1998年)にもう一つ介護保険制度ではとても重要な「介護支援専門員」の(すっきりおなじみケアマネージャー=ケアマネ)の第1回試験がありました。

新しい制度の新しい資格、その資格がなければ施設の運営ができないということもあって関係者はみんな真剣にとり組んでおりましたが「1回目の試験だからほぼ合格だろう」とナメてかかった私(おばら)は見事「不合格」。

まあ、勉強しないで受けたから落ちて当然なんですけど、あまりにも何もしなすぎだったことを少しだけ反省しました。

で、このケアマネの大切な業務の一つにケアプランの作成があるのは皆さんご存知のことと思います。制度が始まった当初ケアプランを作成する際に使われるアセスメント票の講義担当を依頼され、やむを得ず千葉県まで研修に行くことになったのですが、運よく試験に落ちたこともあってパスすることがその時はできました。(翌年合格したらあらためて依頼されましたが…。)

介護保険制度の中では介護現場の苦勞と充実感や達成感がクローズアップされていますがケアマネだって大変な仕事だよあってつくづく思います。

施設ケアマネを含めケアマネの皆さんいつも私たちが縁の下で支えていただき本当にありがとうございます。

でわ、今月もどうぞよろしくお願いいたします。(おばら)



あまりにも何もしなすぎだったことを少しだけ反省しました。

で、このケアマネの大切な業務の一つにケアプランの作成があるのは皆さんご存知のことと思います。制度が始まった当初ケアプランを作成する際に使われるアセスメント票の講義担当を依頼され、やむを得ず千葉県まで研修に行くことになったのですが、運よく試験に落ちたこともあってパスすることがその時はできました。(翌年合格したらあらためて依頼されましたが…。)

